

ケ, カイガラタケからはほとんど採集されない. 兵庫県加東市の記録は現在のところ本種の西限の記録となる.

ニシツヤツツキノコムシ (和名新称) *Octotemnus kawanabei* Kobayashi & Sota

2♂, 佐賀県鹿島市山浦, 9. XI. 2017, カワラタケ・アラゲカワラタケから採集.

東海から南西諸島まで記録がある. 上記3種よりも利用する寄主の幅が広く, カワラタケやアラゲカワラタケ, カイガラタケ, クジラタケなどから得られる.

引用文献

Kobayashi, T. & T. Sota, 2019. Divergent host use among cryptic species in the fungivorous ciid beetle *Octotemnus laminifrons* (Motschulsky, 1860), with descriptions of three new species from Japan. *Systematic Entomology* 44 (1) : 179–191.

(小林卓也 305-8687 つくば市松の里1
森林総合研究所)

【短報】山梨県におけるコガタノゲンゴロウの記録

コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius, 1798) は, ゲンゴロウ科に属する体長24~29 mmの大型水生甲虫である (西原ら, 2015; 中島ら, 2020). 本種は1970年代以降に南西諸島を除き全国的に激減し, 特に本州では多くの地域で絶滅したとされる (西原ら, 2015). 近年は九州や本州西部で増加しているとのことだが (中島ら, 2020), 関東地方やその近郊における確認例は1990年代より前の古いものが中心であり (阿部・中村, 1991), 2015年以降の採集例として記録が公表されているものは千葉県 (柳ら, 2020) と静岡県 (平井, 2020) に限られる. その他, SNSやネットオークションにおいて, 東日本産の本種の情報が散見されるが, これらは引用可能な形で報告がなされていないため詳細は不明である.

筆者の太田は, 山梨県においてコガタノゲンゴロウを採集しているため, 採集状況や得られた環境について報告する. なお, 採集地では本種を含む絶滅危惧種の大型水生甲虫が確認されているため, 本報では場所の特定を防ぐために市町村のみを記載した.

記録: 1♂, 山梨県南巨摩郡富士川町, 9. IX. 2019, 太田圭祐採集, 保管 (図1).



図1. 山梨県産コガタノゲンゴロウ (左: 背面, 右: 腹面).

写真の個体には触角や脚の欠けが見られるが, これは飼育中に失われたものであり, 採集時に欠損はなかった. 同地で本種は1個体のみが得られた.

採集地は山地にある護岸された水深1 m程度の人工池であり, ヒルムシロ等の植物が繁茂していた. 同所ではゲンゴロウ *C. chinensis* Motschulsky, 1854 (成虫と幼虫), コガタガムシ *Hydropilus bilineatus caschmirensis* Kollar et Redtenbacher, 1844 (成虫のみ), ガムシ *H. acuminatus* Motschulsky, 1854 (成虫と幼虫)などの大型水生甲虫が得られている. また, 付近にも水生昆虫相の豊かな湖沼が複数点在する.

山梨県のコガタノゲンゴロウの記録は, 1973年の甲府市で得られたものが唯一と思われ (中村, 1979), 山梨県レッドデータブック (山梨県森林環境部みどり自然課, 2018), 森・北山 (2002) の記録・分布表, 水野・細田 (2010) にも掲載はない. したがって, 県内にかつて本種の定着個体群が存在したのかといった生息状況を推定することは難しく, 今回の採集個体と既知記録との関係性を考察することもできない.

採集個体の由来については, 筆者らによるこれまでの山梨県内の調査 (採集地の再訪を含む) で本種が得られていないこと, 近隣の東京都 (舛部, 2011; 東京都環境局, 2014), 神奈川県 (舛部, 2011), 埼玉県 (新井ら, 2018), 長野県 (四方, 2012; 長野県環境部自然保護課, 2015) で本種の最近の採集記録がなく, 静岡県 (多比良, 2019) で1例 (平井, 2020) のみが知られること, 本種がインターネットや県内のペットショップなどで売買されていることから, 他県からの分散, 人為的な移入, 逃亡した飼育個体の可能性が考えられるが, 現時点では不明である. 今後の調査により, 更に追加個体が得られるかどうかに興味がもたれる.

本稿を記すにあたり、岩田朋文、北野忠、佐野真吾の各氏（アルファベット順）に多大なご助力をいたただいた。御礼申し上げる。

引用文献

- 阿部光典・中村俊彦, 1991. 関東地方におけるコガタノゲンゴロウの記録追加. 甲虫ニュース, (96): 5.
- 新井浩二・亀澤洋・岩田泰幸, 2018. コガタノゲンゴロウ. 埼玉県環境部みどり自然課(編), 埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第4版), p. 200. 関東図書.
- 平井剛夫, 2020. コガタノケンゴロウのライトトラップによる採集の記録. 駿河の昆虫, (27): 7382-7383.
- 苅部治紀(編), 2011. 水生昆虫大百科 2011 年特別展「および! ゲンゴロウくん~水辺に生きる虫たち~」展示解説書. 140 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 水野弘造・細田倅市, 2010. 莽崎市(山梨県)の甲虫. 206 pp., 日本甲虫学会.
- 森正人・北山昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 232 pp., 文一総合出版.
- 長野県環境部自然保護課, 2015. 長野県版レッドリスト~長野県の絶滅のおそれのある野生動植物~. 233 pp. 長野県環境保全研究所自然環境部.
- 中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 352 pp. 文一総合出版.
- 中村光, 1979. 県内で採集した甲虫目(1). 山梨の昆虫, (9): 209-236.
- 西原昇吾・苅部治紀・北野忠・中島淳・永幡嘉之, 2015. コガタノゲンゴロウ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編), レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-5 昆虫類, p. 251. ぎょうせい.
- 四方圭一郎, 2012. 飯田市美術博物館に保管された長野県南信農業試験場コレクションに含まれる注目すべき昆虫類について. 伊那谷自然論集, 13: 53-57.
- 多比良嘉晃, 2019. コガタノゲンゴロウ. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課(編), まもりたい静岡県の野生生物 2019-静岡県レッドデータブック-動物編, p. 255. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課.
- 東京都環境局, 2014. レッドデータブック東京. (<https://tokyo-rdb.jp/index.php>) (2020年5月18日参照)
- 山梨県森林環境部みどり自然課, 2018. 2018 山梨県レッドデータブック. 山梨県の絶滅のおそれのある野生生物. 290 pp. サンニチ印刷, 甲府.
- 柳丈陽・高野直也・中村涼, 2020. 約30年ぶりの記録となる千葉県産コガタノゲンゴロウの記録2例について. 月刊むし, (587): 22-23.
- (太田圭祐 300-0032 土浦市湖北1-9-12)
(山崎駿 263-8522 千葉市稻毛区弥生町1-33
千葉大学理学部化学科)
- (富樫和孝 408-0024 北杜市長坂町富岡2812
北杜市オオムラサキセンター)
- (岩田泰幸 160-0022 新宿区新宿2-1-8
(公財)文化財虫菌害研究所)

【短報】宮古諸島大神島と多良間島のカタボシテントウの記録

カタボシテントウ *Coelophora inaequalis* (Fabricius, 1775) は、スリランカから東南アジア、台湾、中国、日本、フィリピン、マリアナ、ミクロネシア、ニューギニア、ニューカレドニア、オーストラリア、タスマニア、ハワイなどに分布する (Leeper, 1976; Sasaji, 1982). 日本では小笠原諸島に分布することが知られていた (佐々治, 1985). 本種は比較的最近になつて沖縄県に移入されたと考えられており (丸山・大野, 2011), 沖縄島、浜比嘉島、宮古島、石垣島から記録されている (丸山・大野, 2011; 小浜, 2012; 小浜・砂川, 2014). 筆者は、これまで記録がないと思われる、宮古諸島の大神島と多良間島で本種を採集しているので報告する.

採集標本データ:

1 ex. (六紋型: 図1),
大神島(沖縄県宮古島市), 5. III. 2016:
1 ex. (亀甲型: 図2),
多良間島塩川(沖縄県多良間村), 20. III.
2016. 以上、筆者採集・琉球大学博物館(風樹館)保管.

本種の上翅の斑紋・色彩は変化が多いが (Houston, 1979; 佐々治, 1985), 沖縄県から採集された個体の斑紋は亀甲型と六紋型の2型である (丸山・大野, 2011; 小浜, 2012; 小浜・砂川, 2014). 今回得られた大神島産は六紋型で(図1), 多良間島産は亀甲型(図2)であった.



図1. 大神島産カタボシテントウ(六紋型).



図2. 多良間島産カタボシテントウ(亀甲型).

引用文献

- Houston, K. J., 1979. Mosaic dominance in the inheritance of the colour patterns of *Coelophora inaequalis* (F.) (Coleoptera: Coccinellidae). Journal of the Australian Entomological Society, 18: 45-51.
- 小浜継雄, 2012. 沖縄県浜比嘉島でカタボシテントウを採集. 月刊むし, (496): 47.
- 小浜継雄・砂川博秋, 2014. 宮古島における外来種カタボシテントウの記録. Pulex, (93): 647.